

三段峡開峡100周年 多彩なイベント開催

新たな100年がスタート

三段峡開峡100周年記念行事が10月14日、三段峡交流広場などで開かれた。式典では熊南峰、斎藤露翠両氏の親族らに感謝状が贈られ、三段峡憲章を群読した戸河内小学校児童の声が響いた。シンポジウムと峡内ツアーの運営は、「さんけん」メンバーが担当して、これまでの活動を基礎に、参加者へ三段峡の価値を発信した。

記念式典



憲章群読 会場に響く 先人偲び 未来へ継承

町民ら約二百人が出席した記念式典では、三段峡観光同業組合事務局長の高下務氏が、平坦ではなかった三段峡の百年の歩みと熊南峰、斎藤露翠両氏の想いを会場に語りかけ、先人を偲んで紹介した。熊、斎藤両氏の親族と「峡友」原作者の千田武志氏、作画した今



盛況だったシンポジウム会場

シンポジウム

憲章を軸にこれからの姿を展望

三段峡憲章をテーマにしたシンポジウムには七十五人が集まり、三段峡ホテルの大広間を埋めた。さんけん理事で芸北高原の自然館主任学芸員の白川勝信氏は基調講演で、「現場に身を置き、本物を見る大切さ」を強調し、三段峡からの問いかけは、それぞれの人に向けたと指摘した。パネルディスカッションでは、さんけん理事長の本宮炎氏がコーディネーターを務め、これからの三段峡の姿を展望した。

南峰も見た川辺の景観訪ねる

熊南峰の軌跡を偲んで歩く峡内ツアーには、子供から高齢者まで四十七人が参加した。写真。ガイド役はさんけん理事の松尾俊孝さんから指導を受けた五人のさんけんメンバー。普段は下りない川辺へ案内し、南峰も見た景観を訪ねた。

峡内ツアー



さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

一口メモ

▼カエデ約十種
紅葉は十月下旬、聖湖、三ツ滝からスタートし、水梨口を経て、十一月中旬に

正面入り口あたりを染める。峡内にはコハウチワカエデやオオモミジ、ヒナウチワカエデなど約十

種のカエデがある。葉に切れ込みが十一もある種と全くない種がある。落ち葉を手に数えるのも一興。

開峡百周年寄稿

三段峡の名称 命名者・熊南峰の構想力

多くの人は三段滝が三段峡の名称の由来だと考えているが、熊南峰は代表的な名勝としながらも、直接採用したのではないと記している。開峡百周年を記念して、「三段峡」の名称について触れる。(松尾俊孝)

峡谷の名声を願う

江戸中期、山県郡の山水を詠んだ詩歌集が土地の名士によって編まれた。序文には、「一帯の地理は蜀(現・中国四川省)に似て、「山に三峨(峨眉山の三峰)の如きものあり、水に三峡(長江の名勝)の如きものあり」とある。

「三峨三峡」に由来 地勢全体を表現

南峰はこれを引用し、水源の十方山、菊尾山(臥竜山)、深入山を三峨に。横川川、八幡川、柴木川を三峡に。それに二段滝、三ツ滝、三段滝の三段を加え、「三峨、三段、三峡」から一字ずつ拾って三段峡とした。集水域全体の地勢を表現したのである。

圧縮的な美を尊ぶ

一方で、「部分的にも各名形を見立てていると言えよう。日本文化は圧縮的な美を尊ぶのである。三段峡は、

